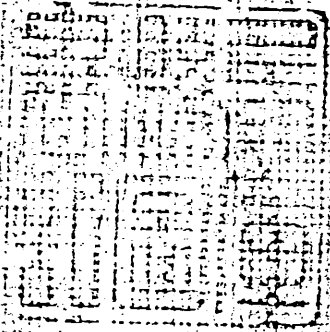


丘庫縣漁業慣行錄

鹹水漁業之部

卷之四



1

兵庫縣漁業慣行録卷之四 鹹水漁業之部

攝津國菟原郡

第一章 漁制

第一款 掟類

第一項 保護ニ關スル事

第二項 漁税ニ關スル事

打出村

本村ハ明治九年ヨリ漁業ヲ創メ今十二年迄海面ヲ借用シ其料トシテ一ヶ年金二圓六十四錢ト漁夫一人ニ付五錢宛ヲ納メシカ其後尚續ヒテ其金額ヲ納ム

蘆屋村

明治九年ヨリ漁業ヲ創メ今十二年迄海面ヲ借用シ其料トシテ一ヶ年金三圓三十六錢ト漁夫一人ニ付五錢

深江村
宛ヲ納メタリ其後打出村ニ全シ

維新前ハ水主米ト稱シ年々二石九斗二升七合永錢二
六百五十一歩ノ浦税其後明治八年迄ハ一兩下一貫文ヲ納
メシカ全九年ヨリ十二年迄海面ヲ借用シ其料トシテ
一ヶ年金一圓八十七錢六厘ト漁夫一人ニ付五錢ヲ納
メタリ其後打出村ニ全シ

青木村

明治八年迄運上トシテ米三升六合宛ヲ納メ全九年ヨ
リ十二年迄海面ヲ借用シ其料トシテ一ヶ年金一圓六
十錢ト漁夫一人ニ付五錢ヲ納メシカ其後打出村ニ全
シ

西青木村

本村ハ明治九年ヨリ漁業ヲ創メ全十二年迄海面ヲ借
用シ其料トシテ一ヶ年金一圓十三錢五厘ト漁夫一人
ニ付五錢ヲ納メシカ其後打出村ニ全シ

横屋村

本村ハ明治九年ヨリ漁業ヲ創メ全十二年迄海面ヲ借
用シ其料トシテ一ヶ年金二圓四十錢ト漁夫一人ニ付
五錢ヲ納メシカ其後打出村ニ全シ

魚崎村

慶應年中ヨリ明治八年迄若干ノ運上ヲナシ全九年ヨ
リ全十二年迄海面ヲ借用シ其料トシテ一ヶ年金二圓
四十錢ト漁夫一人ニ付五錢ツ、ヲ納メシカ其後打出
村ニ全シ

住吉村

本村ハ明治九年ヨリ漁業ヲ創メ全十二年迄海面ヲ借
 用シ其料トシテ一ヶ年金二圓三十六錢六厘ト漁夫一
 人ニ付キ五錢ヲ納メシカ其後打出村ニ全シ

御影村

天保年間ヨリ運上トシテ年々銀四匁八分八厘宛維新
 後ハ明治八年頃マテ永四百二十五文宛ヲ納メ全九年
 ヨリ十二年迄海面ヲ借用シ其料トシテ年々金二圓八
 十錢ト漁夫一人ニ付五錢ヲ納メシカ其後打出村ニ全
 シ

石屋村

本村ハ明治九年ヨリ漁業ヲ創メ全十二年迄海面ヲ借
 用シ其料トシテ年々金一圓四拾四錢ト漁夫一人ニ付
 五錢ヲ納メシカ其後打出村ニ全シ

東明村

維新前ハ運上トシテ年々銀五十匁七分ヲ納メ其後明
 治八年頃迄ハ永五十二文一分ヲ納メ全九年ヨリ十二
 年迄ハ海面ヲ借用シ其料トシテ金二圓五十六錢ト漁
 夫一人ニ付キ五錢ヲ納メシカ其後打出村ニ全シ

八幡村

本村ハ明治九年ヨリ漁業ヲ創メ全十二年迄海面ヲ借
 用シ其料トシテ一ヶ年金二圓三十三錢ト漁夫一人ニ
 付五錢ツ、ヲ納メシカ其後打出村ニ全シ

新在家村

維新前ハ鰯網運上トシテ銀三十七匁又維新後明治八
 年迄ハ金九十七錢五厘ヲ納メ全九年ヨリ全十二年迄
 海面ヲ借用シ其料トシテ一ヶ年金四圓十八錢八厘ト

漁夫一人ニ付五錢ヲ納メシカ其後打出村ニ全シ
大石村

維新前ハ鰯網漁運上トシテ銀二百十一匁三分又維新
後明治八年迄ハ永三貫六百六十四文六分ヲ納メ全九
年ヨリ全十二年迄海面ヲ借用シ其料トシテ一ヶ年金
三圓五十九錢ト漁夫一人ニ付五錢ヲ納メシカ其後打
出村ニ全シ

味泥村

本村ハ明治九年ヨリ漁業ヲ創メ全十二年迄海面ヲ借
用シ其料トシテ一ヶ年金一圓六十錢ト漁夫一人ニ付
五錢ヲ納メタリ其後打出村ニ全シ

岩屋村

本村ハ明治九年ヨリ漁業ヲ創メ全十二年迄海面ヲ借

用シ其料トシテ一ヶ年金三圓六十六錢四厘ト漁夫一
人ニ付五錢ヲ納メタリシカ其後打出村ニ全シ

葦合村

本村字股濱漁場磯區畫漁業ハ往古ヨリ明治三年ニ至

ル迄田成税トシテ年々玄米二拾三石三斗二升八合ヲ
納メシカ後免除セラレタリ又其他ニ漁獵税トシテ明
和八年ヨリ安永二年迄銀二十七匁ヲ納メ以後年々多
少ノ増加ヲナシ文正四年ニ至リ銀三十二匁五分ヲ納
メシカ全五年更ニ減シテ銀三十二匁三分トナレリ其
後又年々多少ノ増加ヲナシ慶應二年ニ至リ銀三十五
匁七分ヲ納メシカ明治二年ニ至リ永六百文トナリ全
四、五年ハ金六拾錢トナリ全七八兩年ハ地租及諸税改
正ニ付納税セス全九年ヨリ全十二年迄海面ヲ借用シ

其料トシテ年々金十二圓漁夫一人ニ付五錢宛ヲ納メ
タリ其後打出村ニ公シ

茅三項 其他ニ關スル事

葦合村

難破船ノ際ノ荷物取扱、全船足定メ、全助ケ船、港内艇船、
船及外國船ヨリ扱荷買取ニ係ル法令アリ詳細ハ参考
書苑原郡茅
四茅五茅六
号ニ掲載ス
寬文三年以来朝鮮人來朝ニ係ル事、當浦ヨ
リ岩屋村ヲ分立セシ事、諸侯用物運送、浦賀新關所開設
ニ付江戸回リ荷物扱方、沿海浦役ニ係ル事務等ヲ扱
シテアリ詳細ハ参考書苑原郡茅七茅八及
茅十号ヨリ茅十五号迄ニ掲載ス

茅二款 規約及慣例

茅一項 保護ニ關スル事

汲江村

漁期 坪網ハ他漁ノ有害トナルヲ以テ例年十月三十
日ヨリ翌年四月三十日迄共ニ
陰曆ヲ其漁期ト定メタリ

住吉村

漁期 鰯漁ハ例年四月下旬ヨリ十月中旬迄ヲ以テ漁
期トス

葦合村

漁期 龜魚、鮎、鱸等産卵後生長ノ時ヲ與フル為メ毎年
三月二日ヨリ十一月二十一日迄共ニ
陰曆手操網ノ使用
ヲ停止ス○海鼠保護ノ為メ寒中三十日間ヲ限り漕
網ニテ捕獲スルヲ停止ス○坪網使用期節ノ制限汲

江村ニ全シ

漁場 東小野午川ヨリ沖手へ九九町十間西新生田川ヨリ沖手へ九三町十八間ノ間ハ鮑魚、鮓、鱸ノ生長ヲ保護スル為メ毎年三月二日ヨリ十一月二十一日迄共ニ午操網ノ使用ヲ停止ス陰曆

茅二項 漁業ニ關スル事

茅一節 漁 權

打出村

本村漁場ハ東武庫郡西ノ宮町界ヨリ西蘆屋村界迄十二町三十六間沖合一里ノ間ニシテ本村ノ共有トス

蘆屋村

地曳網漁場ハ東打出村境字念佛川ヨリ西深江村境字ホジ川迄七町沖合一里ノ間ニシテ本村ノ共有トス但

明治十年以來隣村深江村ト雙方ノ漁場へ相互ニ入會

漁業スルトトナセリ

深江村

地曳網漁場ハ東蘆屋村境字傍示川尻ヨリ西青木村境字三本松筋ニ至ル十町十二間沖合一里ノ間ニシテ本村ノ共有トス但明治十年ヨリ蘆屋村ト入會漁業スルトトナレリ

青木村

カタセ網漁場ハ東尼ヶ崎沖合ヨリ西武庫郡沖合ニ至ル九四里ノ間トス
地曳網漁場ハ東深江村西境ヨリ西御影村西境迄九十九町沖手へ二十町ノ間ニシテ西青木、横屋、魚崎ノ諸村入會トス但鰯漁業ハ村内望ノ者へ入札ヲ以テ之レヲ

許ス而ノ該札代金ハ各村費ニ充ツ故ニ一々年間ノ該
漁業ハ落札人ノ自由ニシテ其他ノ者ハ一切漁業スル
一ヲ許サス

西青木村 横屋村 魚崎村

地曳網漁場ノ事ハ青木村ニ全シ

住吉村

地曳網漁場ハ東魚崎村字濱新田ヨリ西御影村字_下シ
べ新田_L迄四里五十四間沖手ハ一里ノ間ニシ本村ノ共
有トス

明治十七年ヨリ魚崎村地先キニ於テ全村ト入會漁業
ヲナセリ但シ入會料トシテ年々四十圓乃至五十圓ヲ
全村ニ出金セリ

御影村

本村漁場ハ東濱東ヨリ西濱西ニ至ル五町三十間沖手
ハ三十六町ノ間ニシテ本村ノ共有トス但章魚ノ外ノ
漁業ハ本村生魚仲間ノ内望ノ者ニ入札ヲ以テ差許ス
故ニ該漁業ハ落札人ノ專有ニシテ落札人ハ又時トシ
テ他方ノ漁者ニ稼シメ其十分ノ一ヲ徴スル_一アリ

石屋村

地曳網漁場ハ東御影村境ヨリ西東明村境迄三町沖合
ハ七町ノ間ニシテ本村ノ共有トス但村内望ノ者ニ年
度ヲ期シ入札ヲ以テ漁業セシム

東明村

鰯漁場ハ東石屋村境ヨリ西八幡村境迄五町二十間沖
合ハ一里ノ間ニシテ本村ノ共有トス但該漁場ハ村内
望ノ者ニ入札ヲ以テ一年限リ貸渡スヲ例トス
該落札
金ハ村

黄ツニ故ニ該場ノ漁業ハ落札人ノ専有ニシテ若シ自己
漁業ヲ為サ、ル片ハ更ニ他國ノ漁者等ニ稼カシノ其
捕獲高十分一ヲ徴スルアリ

八幡村

地曳網漁場ハ東東明村ヨリ西新在家村ニ至ル九六町
沖手一四町十間ノ間ニシテ本村ノ共有トス

新在家村

鰯漁場ハ東八幡村境ヨリ西大石村境都賀川迄九町三
間沖合一里ノ間ニシテ本村ノ共有トス但入札貸渡
等ノ一ハ東明村ニ全シ

大石村

地曳網漁場ハ東新在家村境ヨリ西味泥村境ニ至ル四
町四十八間沖手一里ノ間ニシテ本村ノ共有トス又味

泥村境ヨリ岩屋村境ニ至ル沿岸三町二十七間沖境三
町二十四間沖手一里以内ノ間ハ味泥村ノ入會漁場ト
ス但入札貸渡等ノ一ハ東明村ニ全シ

味泥村

地曳網漁場ハ東大石村境字堂ノ川ヨリ西岩屋村境字
ウソゴマテ二町二十五間沖一英里ノ間ニ在リ本村

ノ共有ニシテ其他ノ入會トス本場ハ元大石村ノ専漁
レリ詳論ハ未本縣ノ令達ヲ以テ遂ニ本村ノ澳場トナ
村トテ詳論ハ参考書蒐原郡第一年遂ニ入會漁業ノ詳
ヲトセリ該定約書ハ参考書蒐原郡第一年遂ニ入會漁業ノ詳
記ス

岩屋村

地曳網漁場ハ東味泥村境字ウソゴヨリ西葦合村境字
字庄境迄八町沖手一里ノ間ニシテ本村ノ共有トス
但中古漁業一時中止シ大石村ニ於テ該漁場專ニセシ

為ノ明治五年ヨリ紛議ヲ生シ遂ニ今八年ニ至リ兵庫
裁判所ノ判決ニ據リ本村ノ有トナレリ詳細ハ参考書
菟原郡茅三号

葦合村

地曳網漁場ハ東岩屋村境宇庄境川ヨリ西神戸區境舊
生田川西堤防迄二十五町冲手ハ三十三町四十九間又
庄境川ヨリ冲手四十六町五間ノ間ニシテ本村字股濱
部落ノ共有トス該漁場ハ寶曆元年十一月兵庫漁者ト
爭論ノ末遂ニ大阪奉行所ノ裁判ニヨリ定マリタル十
リ詳細ハ参考書菟原郡但本文漁場内礫區畫ヨリ沖手
ハ二百十八間又小野手川ヨリ沖手ハ二ノ外ハ毎年八
百九十九間此間東西五百五十間ヲ云フ十八夜立
ヨリ翌年八十八夜迄ヲ一期トナシ當村望
ノ者ニ入札ヲ以テ貸渡シ漁業セシム故ニ該漁場ハ落

札人ノ自由ニシテ或ハ自ラ漁業ヲナサス他村ノ漁者
ニ入漁セシムル片ハ分一ト稱シ該漁者ヨリ其捕獲高
ニ應シ金又ハ捕魚ヲ徵收ス而シテ落札代金ハ村内ノ
難破船等ノ手當或ハ波止場修繕等ノ費ニ供ス

第二節

仲間加入ノ仕来

青木村 西青木村 横屋村 魚崎村

村内ノ者新ニ漁業ヲ營マントスル片ハ漁者ノ承諾ヲ
經テ後之ヲ縣廳へ出願スルモノトス

御影村

本村ハ生魚仲間ト稱シ生魚營業者申合セ一ノ組合ノ
如キモノヲ設ケ若シ本村ノ者又ハ他村ノ者ニシテ本
村内ニ於テ新ニ漁業ヲ營マントスル片ハ先ツ生魚仲
間ノ承諾ヲ經テ後本縣廳ニ出願ノ上之ヲ許スモノト

セリ
石屋村 東明村 味泥村 岩屋村

村内ノ者又ハ他方ヨリ来リタル者ニシテ新ニ漁業ヲ
營マントスル代ハ先ツ漁者ノ承諾ヲ得サル可ラサル
例ナリ

葦合村
村内ノ者新ニ漁業ヲ營マントスル時ノ手續ハ前村ト
全シ但漁者一統ニ對シ金七十五錢ヲ出サシメ該金ハ
村社祭典費ニ充ツ

茅三節 他方ノ漁夫来漁ニ係ル手續

打出村 蘆屋村 深江村 住吉村 御歌村 石屋村
東明村 八幡村 新在家村 大石村 味泥村 岩屋村
葦合村

他方ノ漁者本村ノ漁場ニ来リ曳網漁ヲナサントスル
代ハ歩一ト稱シ捕獲高ノ一割ヲ徵收シテ之ヲ許スノ
例ナリ但御影村ニ於テハ隣村漁場ニ他方ノ者来漁ノ
際往々其漁場ヲ侵サル、一アリ此場合ニハ本村生魚
仲間ニ於テ之カ取締ヲナセリ又葦合村ニ於テハ正徳
年間ニ岩屋村ヲシテ入漁セシメシ例アリ
九号ニ
掲載ス 詳細ハ一
参考
書菟原郡
茅

茅四節 販賣ノ仕方

蘆屋村

捕漁セシ魚類ハ直ニ深江村隣村魚市場へ運輸シ即金ヲ
以テ取引ス但問屋口錢ハ賣價ノ一割トス

深江村

捕漁セシ魚類ノ販賣方ハ前村ニ全シ然レ代鱒ハ本村

ニ於テ専ラ脯雜子ニ製スル故之ヲ煎屋へ販賣シ代金
ハ一ヶ月六回^三日ニ取引ヲナス

出買ト稱シ西宮地方ヨリ當村海岸ニ来ルモノアリ此
徒へ即金ヲ以テ販賣スル^一アリ

青木村 西青木村 横屋村 魚崎村

捕漁セシ魚ハ直ニ大阪兵庫西宮又ハ尼ヶ崎地方へ運
輸シ即金ヲ以テ取引ス

住吉村

捕漁セシ鱈ハ本村網主自カラ脯雜子ニ製シ又該魚ニ
混セシ魚類ハ即金ヲ以テ本村商人へ販賣ス大漁ノ時
ハ葦合村字股ノ濱ノ魚市場へ運輸シ一割ノ問屋口錢
ヲ出シテ即金ノ取引ヲナス

出買商人尼ヶ崎地方ヨリ来ル^一アリ販賣ノ例深江村

二全シ

御影村 石屋村 東明村 八幡村 新在家村 大石村

捕漁セシ魚ハ総テ本村内生魚小賣商へ即金ヲ以テ賣
却ス

味泥村

捕漁セシ魚類ハ近村煎屋^{脯雜子製造人}へ直賣シ代金ハ毎月

十二月二十八日ノ兩度ニ取引スルノ例ナリ但大漁ノ
時ハ葦合村字股ノ濱及尼ヶ崎市場へ運輸スル^一アリ

此際ニハ問屋へ口錢トシテ賣價ノ一割ヲ出シテ取引
ヲナス

泉州又ハ尼ヶ崎地方ヨリ出買商人来ル^一アリ時トシ
テ即金ヲ以テ此徒ニ販賣スル^一アリ

岩屋村

捕漁セシ鱈ハ本村又ハ隣村ノ煎屋ニ賣捌キ又ハ泉州
出買商ニ年内ニ四五回賣捌クテアリ其手續ハ味泥村
ニ公シ

葦合村

捕漁セシ魚介ハ本村ノ市場ニ運輸シ即金ヲ以テ取引
ス又午後ニ至レハ出買商ニ即金ヲ以テ賣渡ス但シ問
屋賣ノ分ハ問屋ニ於テ八分ノ口錢ヲ以テ取引ス此際
若シ漁者ニ貸金アラハ一割ヲ徴收シ而シテ内ニ分ヲ
該償還ニ充ルモノトス

第五節 漁村維持並救恤

蘆屋村

漁夫等若シ災ニ罹リ死亡スルモノアルハ該諸入費
ハ網主ニ於テ負擔ス尚遺族アルハ二三圓ノ金貸ヲ

賑恤スルテアリ

深江村

前村ニ公シ但賑恤金ハ五圓以下ナリ

八幡村

本村地先海面ニ於テ諸船難風ニ際會セハ直ニ危険ヲ
冒シテ之ヲ救援スルノ例ナリ

味泥村 岩屋村

別段漁村維持法ナシ但若シ救助ヲ要スルノアルハ
豫テ他方ヨリ采漁セシモノヨリ本村ニ徴收セシ金一
金トヲ以テ其幾分ヲ補助セシテアリ

葦合村

難船救援ノ事葦合村ニ公シ但舊幕時代救援セシ例ナ
リ参考書菟原郡第十七号第十八号ニ掲載ス

第三項 雜事

蘆屋村 深江村

祝ヒ 出漁セントスル時其手配り全ク終ルヲ網卸ト稱へ家族及雇夫等ヲ集メ祝宴ヲ催ス又漁期終リ雇夫ヲ解雇セントスル時モ網揚ケト稱へ酒肴ヲ以テ之ヲ饗應ス○鰯大漁ノ時ハ之レヲ祝シテ漁夫等へ手拭等ヲ與フルノ例ナリ

雇夫給食 雇夫ニ食ヲ給スルハ一日ニ三度トス大漁ニ際シ食ノ暇少ナキハ握飯ヲ與フ又飯ノ添ニハ味噌汁或ハ大根漬ヲ以テシ茶ヲ給セス白湯ヲ以テ之ニ代ルノ例ナリ
祭祀禁忌 滑魚一尾九二十貫ノ量ア又ハ大亀網ニ入ルル片ハ直ニ放流スルノ例ナリ蓋シ滑魚ハ人ノ亡魂

ナリ大亀ハ鰯ヲ追ヒ来ルノ恩アリト信スルニヨルト云フ○漁家ニ産婦アル片ハ一週間出漁セサルノ例ナリ蓋シ産穢ニヨリ海上異変アルヲ恐ルニヨルト云フ

青木村 西青木村 横屋村 魚崎村

祝ヒ 始業終業ノ時祝ヲナス
蘆屋村ニ全シ但雇夫ヲ解散セシムルヲ稱シテ分レト云フ

雇夫給食 雇夫ニ食事ヲ給スルハ朝六時晝十二時夕六時ノ三度トス食事ノ際ハ撃柝ヲ以テ合圖ヲナシ職ノ順ヲ以テ坐ニ就キ喫食ス飯ノ添へニハ捕魚ヲ用フ但シ之ヲ調理スルニハ総テ塩ヲ以テス又飲料ハ総テ湯或ハ水トス
祭祀禁忌 漁夫ノ信仰スル神ハ西宮戎神ニシテ漁期

中ハ時々全社ニ集リ大漁ヲ祈ル但シ大漁アル片ハ之ニ賽スルノ例ナリ

住吉村

祝ヒ 大漁アル片ハ祝ヒトシテ漁夫等へ一合柄杓ニ一杯ノ酒ヲ與フノ

雇夫給食 蘆屋村ニ全シ

祭祀禁忌 漁家ニ産婦アル片ハ産忌ト稱シ一週間休

業ス又毎月二十八日ハ休業スルノ例ナリシカ明治十五年頃以来自然廢止セルノ姿ナリ

東明村

祝ヒ 出漁セントスル時其手配リ全ク終ルヲ網卸シ

ト稱へ雇夫相集リ祝宴ヲ張り亦海邊ニ一本ノ紅木綿ノ幟リヲ建ツルノ例ナリ○鰯大漁ノ片ハ祝シテ

雇夫手間取ニ至ル迄揃ヒノ紅染手拭ヲ給與シ又海邊ニ紅染幟ヲ建ルノ例ナリ

雇夫給食 雇夫ニ食ヲ給スルハ朝五時晝十一時夕六

時ノ三度トス大漁ノ片ハ握飯ヲ與フ右食事ノ節ハ船頭大聲以テ各漁者ヲ呼ヒ集メ逐次列座シテ喫食

ス飯ノ添朝飯ニハ味噌汁菜漬晝晩ノ二飯ニハ菜漬ト捕獲物ノ賣却残倍ニ之ヲ下ヲ以テス

祭祀禁忌 漁夫ノ信仰スル神ハ其數ニ社就中最モ歸

依スルモノハ西宮戎神ニシテ漁期中時々參詣シテ大漁ヲ祈リ且神酒上ケ杯ト唱へ漁夫相集リ酒ヲ吞

ミ其勞ヲ慰ムルナリ

八幡村

祝ヒ 大漁ノ片ハ其内ノ小魚ヲ調査シ酒ヲ添へテ雇

夫等ニ支給スルナリ

雇夫給食 雇夫給食ノ一蘆屋村ニ全シ但大漁ノ節ハ

定例ノ外ニ十二時ヨリ六時迄ノ間ニ握飯ヲ給與ス

新在家村 大石村

祝ヒ 大漁ノ時ハ手拭又ハ下帶ヲ給與ス

雇夫給食 雇夫ニ食ヲ給スルハ朝晝晩ノ三度ニシテ

船頭ノ指揮ニ従ヒ之ヲ喫ス若引網中ニ食時来ラハ

握飯ヲ用エ飯ノ添ニハ野菜又ハ澤庵漬ヲ以テス

祭祀禁忌 祭祀ハ普通ニ異ナラス而シテ其日ハ休漁

シ各相祝スルモノトス

味泥村

祝ヒ 始業終業及大漁ノ片祝ヒヲナス一蘆屋村ニ全

シ

雇夫給食 東明村ニ全シ

祭祀禁忌 漁夫ハ皆北辰妙見宮ヲ信仰ス○大亀網ニ

罹ル片ハ大漁ノ兆トシ或ハ鰯ヲ追ヒ来ルモノトシ

夥多ノ酒ヲ吞マシメ尚後來ノ大漁ヲ頼ミテ之ヲ放

流スルノ例ナリ○漁家ニ産婦アル片ハ産忌ト稱シ

一週間休業スルノ例ナリシカ近年漸ク消滅ノ姿ニ

至レリ

岩屋村

祝ヒ 味泥村ニ全シ

雇夫給食 雇夫ニ食ヲ給スルハ新在家村ニ全シ又大

漁ノ片ハ其外ニ握飯ヲ與フルナリ又飯ノ添ニハ

大根漬及捕魚類ヲ以テス茶ハ給セス白湯ヲ用エ

祭祀禁忌 味泥村ニ全シ

葦合村

祝ヒ 始業ノ時及鱒、鰯ノ大漁ノ氏祝ヲナス
葦屋村ニ全シ

雇夫給食 雇夫ニ食ヲ給スルハ朝ハ五時晝夕ハ漁業

ノ都合ニ依リ一定セス時トシテハ握リ飯ヲ與フル

トアリ飯ノ添ニハ味噌汁菜漬澤庵漬又ハ漁獲物ヲ

煮テ與フ飲料ニハ茶ヲ用ユ

祭祀禁忌 漁夫ノ信仰スル所ノ神ハ金比羅神蛭子神

瀧澤神トス就中歸依スルモノハ蛭子神トス該社ハ

當時腋濱組字砂子ニアリ漁期中ハ漁者各神酒ヲ供

ヘ大漁ヲ祈ル且毎年六月九日ニハ神酒ヲ供ヘ神樂

ヲ奏シ巫女ヲシテ神湯ヲ供ヘシム

茅三款

犯則違例ノ處分

蘆屋村

深江村

住吉村

漁者等網主ニ對シ違約スルトアルハ呵責スルノ例
ナリ

青木村

暴風ノ際難船アルヲ認メテ之カ救助ニ盡カズル者ハ
報酬トシテ一日ノ捕獲金高三分ノ一ヲ支給スト雖モ
尚シ之ニ反シテ見聞シナカラ救助ニ出サルハ以後
漁者タルヲ許サ、ル慣例ナリ

東明村

本村漁場内ニ他村ノ漁者猥リニ入漁セシハ其捕獲
物ハ悉皆當村漁業受負人ヘ取り上クルノ慣例ナリ

味泥村

岩屋村

鯿 鯿
 小蝦 蝦雜喉
 鯿 鯿
 鯿 鯿
 手長魚

コシヨウ 鯛
 赤鯛
 海鰻
 浅黄海鰻
 赤鯯魚
 網喰蟹津蟹ノ小ナルモノ
 鱈残魚

天シジ 神鯿
 赤貝
 海鰻
 浅黄海鰻
 赤鯯魚
 網喰蟹津蟹ノ小ナルモノ
 鱈残魚

鮫 魚
 赤貝
 海鰻
 浅黄海鰻
 赤鯯魚
 網喰蟹津蟹ノ小ナルモノ
 鱈残魚

鯽 魚
 赤貝
 海鰻
 浅黄海鰻
 赤鯯魚
 網喰蟹津蟹ノ小ナルモノ
 鱈残魚

白魚
 白サ 蝦
 海鰻
 白ト 鰻
 白ト 鰻
 烏賊
 モリ 烏賊

モリ 草

第二項 大小輕重

鰯
 孚化後一年ニシテ成長ス八九月ヲ最モ佳味ノ時トス

草合村調査ニヨル以下公シニ

烏賊
 普通孚化後二年ニシテ十分成長ス最モ大ナルモノハ

モング 烏賊ニシテ九一貫五百目アリ佳味ハ四五ノ頃ナリ

玉筋魚
 孚化後一年ニシテ成長ス三四月頃ヲ佳味ノ時トス

鯉
 毎年七月ヲ佳味ノ時トスレ既就中孚化後三年目ノモノヲ最佳トス而シテ其最大ナルモノハ圍リ一尺長サ五六尺ニ至ル

鰻
 孚化後二年ニシテ成長ス當歳ノモノハ八九七八寸之ヲイナト云フ九月ヲ佳味ノ時トス

ベラ
 孚化後一年ニシテ成長ス其長サ四五寸ニシテ八九月

ベラ

文鯨魚

ヲ佳味ノ時トス
孚化後三年ニシテ成長ス其長廿九七八寸アリ六七月頃ヲ佳味ノ時トス

海鯽

孚化後三年ニシテ成長ス其大ナルモノハ一尺七八寸此量一貫四五百目アリ三月九月ヲ佳味ノ時トス

鱸魚

孚化後二年ニシテ大廿五六寸トナル十二月一月ノ間ヲ佳味トス

鰈

夏季ニ於テ孚化シ以後一年ニシテ三寸餘ニ長シ三年目ニシテ全ク成長シ九七八寸ヨリ一尺ニ至ル佳味ノ

時ハアマ鰈柗鰈ハ七月頃石鰈大口鰈ハ八九月頃若狹

鰈ヘイジ鰈大黒鰈ハ定時ナク常ニ佳味ナリ

蟹

孚化後三年ニシテ成長ス此量九二百七八十目アリ九十兩月ノ間ヲ佳味ノ時トス

刀魚

孚化後三十日位ヲ經テ六月頃大廿二三寸位トナル之ヲタビノヒモト云フ其年十一月頃ニ至レハ二三尺ニ及

ヒ此量目二百目許アリテ佳味時トス

章魚

本村ニ生産スルモノハ概子小ナリ其長廿三寸乃至四寸其量二十目乃至三十目アリ又西海ヨリ来ルモノハ大ニシテ長廿八寸乃至一尺位アリテ其量四百目乃至

五百目アリ而シテ佳味ノ時ハ秋トス御影村調査ニヨル

タモリ
孚化後一年ニシテ六七寸トナル九月ヲ佳味ノ時トス

葺合村調査ニヨル以下全シ

ツノシ

其形鮠魚ニ似テ色赤シ當歳ノモノニシテ五六寸三年目ニシテ一尺トナル二月頃ヲ佳味ノ時トス

ウボゼ

孚化後一年ニシテ成長ス其長六七寸アリ九月十月ヲ佳味ノ時トス

鯧

孚化後一年ニシテ成長ス八月ヲ佳味ノ時トス

鰈

孚化後二年ニシテ成長ス其長サ七八寸八月ノ頃ヲ佳味ノ時トス

魴

孚化後三年ニシテ成長ス其量九八百目アリ一月ヲ佳味ノ時トス

鰯

孚化後三四ヶ月ニシテ七八寸、一年ニシテ一尺二三寸二年ニシテ二尺、三年ニシテ成長ス此量九二貫目アリ之レヨリ大ナルモノハ四五貫目ニ至ルモノアリ佳味ハ九月十月ノ時トス

コシナカ鰯

孚化後三十日程ヲ經テ五月頃ニ至ルモノ大サ二寸許ニ過

鮪

キス該魚ハ鮪雜子ニ製シテ最モ良トス
芦屋村調査ニヨル

孚化後三年ニシテ成長ス此大サ一尺四五寸位ニシテ
其量四百八九十目アリ九、十一月頃ヲ佳味ノ時トス

鰶

葦合村調査ニヨル以下全シニ

孚化後四五ヶ月ニシテ大サ三寸許トナル之ヲツナシ
ト云フ六、七ヶ月ヨリ八、九ヶ月ノモノヲナカツト云ヒ
其ササ四、五寸アリ一ヶ年ニシテ成長ス其量九十目許
ナリ之ヲ佳味ノ時トス

カシヨウ鱈

孚化後九ソ一年ニシテ九六寸トナル其量百三十目二
年目ニハ八九寸其量四百目、三年目ニハ一尺余其量七
八百目四斗目ニハ一尺二三寸其量一貫目、五年目ニハ
一尺五寸其量九一貫五百目トナル

蝦

孚化後三年ニシテ成長ス但小蝦磯叩蝦ハ孚化後一年
ニシテ成長ス何レモ常時佳味ナリ

鯧

孚化後二年ニシテ成長ス其長サ七八寸アリ八、九月頃
ヲ佳味ノ時トス

鱈

普通ニ成長セルハ三年目ノモノトス此量二貫二三百
目アリ而シテ七八月頃ヲ佳味ノ時トス

海鰻鱺

孚化後二年ニシテ成長ス十二月ヨリ翌年一月至ルノ

間ヲ佳味ノ時トス

鮑魚

小ナルヲコソツクリト云ヒ最モ小ナルヲ「マ」ニトリト云
フ學化後三年ノモノハ其大廿九一尺ニ至ルニ、三月頃
ヲ佳味ノ時トス

赤貝

學化後三年ニシテ成長ス當歲ノモノヲ「サ」ルボ貝ト云
フ十二月ヲ佳味ノ時トス

鰾

學化後三年ニシテ成長ス其大廿九一尺ナリ

鱈

學化後二年目ノモノヲ青箭魚ト云フ其大廿八九寸ア
リ四年目ニシテ全ク成長ス大廿二尺七、八寸ナリ佳味ノ

時ハ七、八月頃ナリ

授双魚

學化後一年ニシテ成長ス八、九月頃ヲ佳味ノ時トス

鱈殘魚

學化後二年ニシテ六、七寸トナル其大ナルモノヲ「カ」ハ
鱈ト云フ一尺許ヲ佳味ノモノトス

鱸

學化後五、六ヶ月ニシテ大廿五六寸ニ至ル之ヲ「セ」イ「ゴ」
ト云フ此量十五文目乃至二十目アリ又八、九ヶ月ニシ
テ大廿九一尺ニ至ル之ヲ「セ」イ「ト」云ヒ此量凡百四五
目アリ二年目ニ至リ大廿一尺五、六寸トナル之ヲ「ハ」子
ト云フ此量凡二百四、五十目、四年目ニ至リ全ク成長ス
其大廿二尺四、五寸ニシテ此量八九百目アリ是レ最モ

佳味ノモノニシテ七月中ヲ最モ良トス

真原縣

第二款 漁期

茅一項 期節

捕魚採藻ノ期節尤ノ如シ

品名		玉筋魚	鰯	烏賊	鱧	大鰯	鰈	章魚	刀魚
深江村	期節	自五月至十一月	自五月至十一月			自五月至十一月		自五月至十一月	自五月至十一月
	良時季								
青木村	期節							自五月至十一月	
	良時季								
御影村	期節							自六月至十一月	
	良時季								
葦合村	期節	自六月至十一月	自六月至十一月					自五月至十一月	
	良時季	自八月至九月	自四月至五月	七月	八月		七月		

系

鱸	鮪魚	蝦雜喉	鯨	コシカ鰯
		自五月 至十一月	自六月 至十月	自五月 至十一月
		周年		
		自四月 至五月		
自六月 至八月	自一月 至四月		自五月 至十二月	
七月				

茅二項 氣象

鰯漁ハ夏ハ西風少シク吹キ秋ハ朝ニ東風ヲ吹キテ午後
ニ止ムヲ好時トス蘆屋村調査ニ六甲山及兜山ニ雲現
ハル、戌ハ雨トナリ又兜山邊ニ當リ電ヲ見ル戌ハ翌日
必ス雨或ハ風トナルノ兆候ナリト云フ○鰯漁期中毎日
午前ニ東風吹テ午後南風ゼマアル戌ハ捕魚多シ往吉村調
査ニヨル
以下○和泉地方ノ山頂ニ雲現レ或ハ東ヨリ雲出テ六甲
山ニ懸ル戌ハ雨又北ヨリ雲出テ六甲山ヲ覆フ戌ハ風ト

ナルノ兆ナリ○例年十一月頃適度ノ北風アルハ鰯
海岸ニ群集スト云フ石屋村調査ニ○本村西南隅ヨリ風
雨起ル戌ハ勢ヒ最モ烈シク時トシテハ船ヲ海岸へ吹キ
上ル等ノトアリ此風ヲ方言ハ九月頃後十二月頃迄ニ最
モ多シ○例年十月頃氣候順ニシテ晝ハ南風夜ハ北風ヲ
送ル戌ハ鰯魚海岸ニ群集ス然レ氏南風荒キ時ハ怒濤ノ
為ノ漁具ヲ使用スルノ能ハス新在家村調
査ニヨル○高取山ニ雲
現ハル、戌ハ雨トナリ又六甲摩耶両山ニ雲起ル戌ハ南
風ゼマトナルト多シト云フ味泥村調
査ニヨル○東風ヲ返シト唱へ
風位東ヨリ南ゼマニ變シ又南ヨリ辰己ノ方位ニ移ル戌ハ
風力極メテ烈シク而シテ其成亥ノ方ニ吹クヲ南ゴ午又
イナサト稱シ漁夫最モ恐ル、トコロノ風ナリト云フ○
鱸ハ例年漁期六月ヨリ十一月迄ノ間ニアリテ此時南風

方言吹ケハ魚群集ス葦合村調査ニ○鱚ハ八月ノ頃東風
 方言吹クハ沖合海底ノ泥動ク為メニ陸地ニ近寄ルヲ
 コテ捕獲多シ十一月、十二月ノ交ハ西風吹クヲ良トス○鰯
 ハ九十月ノ交北風地方言吹クハ風ニ逆テ集ル十一月、十二
 月ノ交西風吹クハ海底冷カナルヲ以テ海岸ニ群集ス
 ○其他ノ魚ハ都テ夏ハ定リナキモ冬ハ西風吹クハ群
 集ス○氣候順ニシテ晝ハ南風夜ハ北風ヲ送ルハ海岸
 近接ノ潮水澄ミ諸魚群集ス故ニ大網ノ收利多シ○日々
 好天氣ト雖モ東山官林及布引山ニ淡黒ノ雲出ルハ驟
 雨ヲ来シ又此雲淡路島ヲ蔽フハ霖雨トナル霖雨ヲ地
 ○河内國金剛山ヨリ淡黒ノ雲起リ東山官林及布引山ト
 摩耶山トノ間ニ奔リ降雨ナキハ東風強ク終ニ風位午
 未ニ遷リ方言マセヤ益暴烈ヲ極メ高浪ヲ起シ沿岸ノ人家ヲ

倒シ波止場ヲ破壊スルナリ○晴朗ト雖モ微風アリテ
 海面淡黒色ヲ呈ハシ潮水ノ量増加スルハ倍ニ海フク
 終ニ曇天ト變シ激浪暴風雨ヲ起ス此時ハ獨リ漁者ノミ
 ナラス航海者ニ至ル迄一般ニ警戒ス

第三項

群来ノ前兆

鰯群来スルハ沖合ニ於テ夏ハ潮水堆起シテ散シ秋ハ
 潮赤色ニ變ス葦屋村調査ニヨル○鱚群来ノ兆ハ水中ニ閃光ヲ見
深江村調査ニヨル○鰯群来スルハ沖合ニ鷗等群飛ス漁者ハ
 之ヲ見テ既ニ何レノ邊ニ近寄来レルカヲ了知ス石屋村調査ニ
 ○玉筋魚群来スルハ海雀海中ニ潜入スルコト頻ナ
 リ又鰯鱸等ノ群来ハ海中ノ一部分赤クシテ堆クナリ或
 ハ鷗群飛スルヲ見テ之ヲ知ルナリ葦合村調査ニヨル
 第四項 去来ノ期節方方向

鯛八年ノ氣候ニ依テ異動アリト雖モ概シテ五月ヲ來期
 トシ十一月ヲ以テ去期トス又本漁場ハ極メテ淺シ故ニ
 十二月頃ニ至レハ水底ノ寒氣烈シキニヨリ皆南海ニ移
 去ス蘆屋村調
査ニヨル

第三款 漁場

蘆屋村

區域 漁場ハ東ハ打出村西ハ深江村ヲ界シ此間七町
 沖手へ一里トス
 潮流 常ニ東西ニ往來シ四時共ニ緩急ナシ然レモ風
 雨ナクシテ一帶ノ潮起リ來ルコトアリ之ヲ潮目ト
 云フ
 水底ノ概狀 岸ニ接近セシ所ハ深サ一二尺是ヨリ進
 ンテ一二尋ノ所ハ水底砂利ニシテ六月頃ドロメン
 及イナゴ群來ス又進ムト凡五町ノ處ハ深サ九四尋
 ニシテ一ノ藻ヲ生ス此處ヲ沖ノ藻ト云フ尚進ンテ
 陸ヲ距ル凡一里ノ處ハ深サ九九尋或ハ十尋アリ是
 ヨリ以往概子深淺ナシ

系

深江村

區域 漁場ハ東蘆屋村ヨリ西青木村迄此間十町十二間沖合へ一里ノ間トス

潮流 蘆屋村ニ全シ

水底ノ概狀 蘆屋村ニ全シ但陸ヲ距ル九一里半ノ處ハ其底泥ニシテ鳥貝赤貝ヲ産出ス

青木村

區域 ウタセ網漁場西武庫郡沖合ヨリ東尼ヶ崎沖合ニ至ル九四里ノ間ニアリ○鰯漁場東深江村境ヨリ西御影村境迄十九町沖合へ十五町乃至二十町ノ間ニアリ

水底ノ概狀 岸ニ接近セシ處ハ深サ一尋ニシテ進ンテ十五六町内外ニ至レハ十三尋ニ達ス水底ハ都テ

土砂ニシテ鰯漁トス此處ニテ漁セル鰯ヲカラヤマト稱へ其味頗ル美ナリ

西青木村 横屋村 魚崎村

區域 鰯漁場ハ青木村ニ全シ

水底ノ概狀 青木村ニ全シ

住吉村

區域 漁場ハ東魚崎村境ヨリ西御影村境ニ至ル四町五十四間沖合へ一里ノ間トス

潮流 常ニ東西ニ往來シ夏日東風ヲ吹ク所ハ一帶ノ

潮起ル之ヲ土用浪ト云フ

水底ノ概狀 岸ニ接近スル處ハ深サ一二尺ニシテ是

ヨリ進ンテ一尋ヨリ二尋ノ深サニ至ル此邊水底ハ砂利ナリ陸ヲ距ル九一町半ノ處ハ九四尋ノ深サニ

ニシテ一種ノ藻ヲ叢生シドロメン鰯多ク集マリ居ル之ヨリ深廿五六尋トナリ遂ニ九八九尋ニ至リ極度トス此邊ハ皆泥砂相混セリ

御影村

區域 章魚漁場ハ東住吉村境ヨリ西石屋村境ニ至ル四町五十二間沖午ハ夏季ハ十四五間秋冬ハ一町半ノ間ニアリ

潮流 四季共ニ概シテ緩ナリ

水底ノ概狀 岸ニ接近セル處ハ二尋ノ深サニシテ水底ハ小砂利ナリ次ヲ洲ト云フ陸ヲ距ル深サ一尋乃至二尋水底ハ小砂利ナリ是ヨリ少シ進ミシ處ハ砂底ニシテ夏日章魚往来ノ筋トス次ヲ泥ト云フ深サ九三尋ナリ是ヨリ漸次進ンテ七尋位ノ處ニ至レハ

砂底ニシテ秋冬ノ際章魚ノ通行スル路トス以上通行ノ處ハ即チ章魚壺ヲ配置スル處ナリ之ヨリ沖ハ一体ニ泥底ナリ

石屋村

區域 鰯漁場ハ東御影村境ヨリ西東明村境ニ至ル三町沖合ハ七町ノ間ニアリ

水底ノ概狀 岸ニ接近セル處ハ深サ二尋餘ナリ陸ヲ距ル二町ノ處ハ潮流ノ為メ土砂聚合シテ洲トナリ東西ニ長ク延キ其幅負一町餘アリ此處満潮ノ際深サ一尋内外アリ是ヨリ以外ハ深サ六尋内外ニシテ泥土ナリ

東明村

區域 鰯漁場ハ東ハ石屋村境ヨリ西ハ八幡村ニ至ル

五町二十間沖合へ一里ノ間ニアリ
水底ノ概状 東明村ニ全シ

八幡村

区域 漁場ハ東東明村ヨリ西新在家村ニ至ル九六町
沖合へ九四町十間ノ間ニアリ

新在家村

区域 鰯漁場ハ東八幡村境ヨリ西大石村境ニ至ル九
町餘沖合へ一里ノ間ニアリ

潮流 常ニ東西ニ往来シテ緩ナリ
水底ノ概状 陸ヲ距ル九十町ノ處ハ深廿九九尋ナリ

水底ハ都テ泥ニシテ海藻ヲ生ジドロメンヲ生産ス
ル處ナリ

大石村

区域 鰯漁場ハ東新在家村ヨリ西味泥村ニ至ル四町
四十八間沖合へ一里ノ間ニアリ

潮流 新在家村ニ全シ
水底ノ概状 新在家村ニ全シ

味泥村

区域 漁場ハ東大石村ヨリ西岩屋村ニ至ル二町餘沖
合へ一英里ノ間ニアリ

潮流 潮流ハ蘆屋村ニ全シト雖氏潮目ハ西風吹クノ
前ニアリ

水底ノ概状 岸ニ接近セル所ハ一二尺ノ深サニシテ
順次進ンテ一尋又ハ二尋ニ至ル水底砂利ナリ此處

ニ鰯魚群集ス次ニ陸ヲ距ル三町餘ノ處ハ三尋ノ深
サトナリ水底ニ一ノ藻ヲ叢生セリ此處ニドロメン

群来ス之レヨリ頓ニ七尋餘ノ深サトナリテ水底泥砂ナリ是ヨリ以外ハ概子深淺ナシ

岩屋村

区域 鰯漁場ハ東味泥村ヨリ西葦合村ニ至ル八町沖

合一里ノ間ニアリ

潮流 味泥村ニ全シ

水底ノ概状 味泥村ニ全シ

葦合村

区域 諸魚漁場ハ概子礫區畫漁場ニアリ此處ハ灣形

ヲナシ新生田川ヨリ沖手へ二百十八間又小野手川

ヨリ沖手へ二百九十九間東西五百五十間ノ間ニア

リ鰯鰈刀魚ツバス鰯鳥賊ノ類ハ差網ヲ用テ當村沖

手九五里ノ間ニ於テ漁ス○赤貝類ハ本村地先海面

砂底ノ處ヲ經テ泥海トナリタル處ニ多ク生育スル

ヲ以テ大抵此處ニ於テ捕獲ス

潮流 大阪安治川木津川西川ヨル流レ来ル水勢ノ如

何ニヨリ一定セスト雖比概子東西ニ流レ而シテ春

冬ハ稍緩ニシテ夏秋ハ急ナリ

水底ノ概状 岸ニ接近セル處ハ深サ九二尋ナリ此處

ヲ礫際ト云ヒ四尋ノ處ヲ礫畫内ト云フ此水底ハ砂

礫ナリ故ニ此名アリ此處ハ三月ヨリ八月下旬迄鱸

鰯鰈黒鯛章魚等群来ス此處ニテ漁セシ魚凡ハ礫魚

ト稱ヘ該區畫外ニ生息セシ魚ニ比シ味特ニ美ナリ

次ヲ白砂ノ洲ト云ヒ其底白砂ナリ多ク諸魚游泳ス

スル處ナリ次ヲ泥ト云フ陸ヲ距ル九十六町ニシテ

深サ八尋アリ其底ハ泥ナリ尚進ニテ陸ヲ距ル二十

町ノ所ニ出レハ深サ九十八尋ニ至ル此處ヲ中沖ト云ヒ專ラ延繩ヲ配置スル所トス

兵庫縣

茅四款 入會漁船ノ數

深江村

一貝類漁場

漁船總數 七十八艘

明治十九年六月調

内

西ノ宮地方ノ漁船 二十艘

尼ヶ崎地方ノ漁船 五十艘

本村漁船 八艘

當漁場ハ明治十五年頃迄船數四十艘許ナリシカ

其後年々増加シ遂ニ本文ノ數トナレリ

一蝦雜喉漁場

漁船總數 八十五艘

明治十九年六月調

内

兵庫縣

西宮地方ノ漁船 十五艘
 尼ヶ崎地方ノ漁船 四十艘
 本村漁船 三十艘
 當漁場ハ明治十年頃迄ハ三十艘許ナリシカ今十五年頃ヨリ年々増加シ遂ニ本文ノ數トナレリ

一 鯨漁場
 漁船總數 二十四艘
 明治十九年 六月調

西宮地方ノ漁船 十艘
 尼ヶ崎地方ノ漁船 二艘
 本村漁船 十二艘
 當漁場ハ明治十年頃迄ハ十艘許ナリシカ今十五年頃ヨリ年々増加シ遂ニ本文ノ數トナレリ

第五款 漁具

第一項 漁網及釣具等

漁具現數 尤ノ如シ

漁具名	蘆屋村	深江村	青木村	西青木村	青横屋村	魚崎村	住吉村	御影村	東明村	八幡村	新世家村	岩屋村	菅合村	合計
鰯地曳網	一	四				一			一	二	一	一		一四
鰯玉筋魚網														二
沙魚建網														二〇
ベラ釣														四〇
鳥貝桁網 <small>一名ウタセ網</small>														四
海鰯釣														一〇
鰯建網														一五
鰯拵繩														三五
刀魚釣														一五〇

海鼠網	真章魚 <small>雜魚 浮網</small>	真章魚壺	鰾坪網	鰾建網	鰾釣	雜魚手網	雜魚網	鰾殘魚釣	鰾魚網 <small>鰾魚 鰾網</small>	鰾釣
				四〇	六					
						二			六〇	
	五									
五	四	三		一						二
五	九	三	六	五	三	三	二	三	七	二〇

漁船現數九ノ如シ

第二項 漁船

種別	一間漁船	一間半漁船	二間漁船	二間半漁船	三間漁船	三間半漁船	四間漁船	五間漁船	六間漁船	七間漁船
蘆屋村					二				二	
深江村							三	〇	二	六
青木村		五								
西青木村		三								
橫屋村		一								
魚崎村		二								
住吉村					四					
御影村		一								
東明村	二						二			
岩屋村				三	二					
葺合村	一	一	三	三	四	三				
合計	三	二	六	三	八	一七	三	〇	四	六

兵庫縣

兵庫縣

第六款 漁法

鰯漁

曳網 漁船二艘ニ各十八人宛乘組網一疊ヲ分載シ
 一艘ノ指揮船ニ一人乘組都合三艘ニテ一里以外ノ
 沖合ニ進行シ指揮船一艘ハ止リ二艘ノ漁船ハ左右
 ニ山形ニ別レ進ムニ從ヒ網ヲ海中ニ布キ繩網終ル
 ニ到レハ此時兩船三綱ヲ投シテ舳ヲ歸途ニ曲ケ漁
 夫ハ六丁ノ櫓ヲ以テ勇マシク漕キ歸リ海岸ニ着ケ
 ハ轆轤ヲ以テ網ヲ卷キ繩網ニ到レハ午ニテ之ヲ引
 揚ケ既ニ袋口ニ近カ付ケハ漁夫ハ共ニ集合シ袋ヲ
 岸ニ引揚ケタマフ以テ魚ヲ收ム時ニ指揮船ハ常ニ
 網ノ後ニアリテ魚ノ脱去ヲ防キ且傍ヲ漁夫ヲ指揮
 シ尚大漁ノ時ハハツ即チ小袋ヨリ魚類ヲ抜き取

ル丁ニ着手スルモノトス
芦屋村調
査ニヨル

玉筋魚漁

玉筋魚網八部郡瓢箪網ニ全シ

鰯魚漁

沖取網 鰯沖取網ニ全シ

沙魚漁

建網 漁舟一艘ニ三人乗組ミ該網三十把ヲ載セ一里

以外ノ沖合ニ進ミ日ノ出前或ハ日没前ニ時期ヲ待

テ網ヲ海底一文字ニ沈メ翌朝日出及日没頃ヲ待テ

引揚ケ魚ヲ收ム
深江村調
査ニヨル

鰯漁

沖取網 漁期秋冬ノ間ニシテ使用法鱸沖取網ニ全シ

葦合村調
査ニヨル

ベラ漁

釣 三原郡ニ全シ

海鰈漁

釣 如古郡ニ全シ

鰈漁

建網 六月ヨリ八月迄ハ釣漁業ヲナスモ他魚ノ棄レ

去ルヲ以テ該網ヲ配置シテ捕獲スルモノニシテ漁

船一艘ニ二名乗組該網四十把ヲ備ヘ漕キ出スナリ

葦合村調
査ニヨル

併繩 漁船一艘ニ二名乗組ミ該漁具五桶ヲ備ヘ出漁

ス餌料ハ蝦及雜魚ニシテ日没前後ニ海中ニ投シ置

キ翌朝未明ニ揚クルモノトス
葦合村調
査ニヨル

鳥貝漁

桁網一名貝ウ

二村ヨル

川邊郡ニ全シ但該網八疊ヲ使用ス江源

刀魚漁

釣 津名郡ニ全シ

海蠶漁

飾東郡漕網ニ全シ

真章魚漁

沖手繰網 津名郡雜魚手繰網ニ全シ

壺繩 明石郡ニ全シ

鰲漁

沖取網 鱸沖取網ニ全シ

建網 沙魚漁ニ全シ

坪網 飾東郡鱸坪網ニ全シ

鮪漁

釣 津名郡ニ全シ

雜魚漁

手繰網 津名郡ニ全シ

ウタセ網 飾東郡ニ全シ

沖取網 鱸沖取網ニ全シ

鱈殘魚漁

釣 三原郡ニ全シ

鱸漁

沖取網一名カセ

漁期夏日ニシテ網船二艘各八人

宛來組ニ手船四艘各二人宛來組ニ都合六艘ノ船ヲ

備フ而シテ手船ハ魚ノ群居ヲ視察シ二艘ノ網船ニ

指揮ス網船ハ即チ分載ノ網ヲ繫キ左右ニ分テ孤線

ニ布ク之ヲ沖田リト云フ時ニ舟船ハ網ノ周圍ヲ回
 リ槌ヲ叩キ或ハ鵜竿ヲ海中ニ入レ魚ノ網口ヨリ脱
 去スルヲ防キ且ツ浮子ヲ引キ締ムル等ノ加勢ヲナ
 ス網ヲ繰ル既ニ七八分ニ至レハ又左右ニ関ク此時
 網船ハ「タ」ヲ以テ魚ヲ抄ヒ取ルモノトス葺合村調
 釣 津名郡ニ全シ

茅七款 有害漁法

ガ午網及マカセ網漁ハ舷ヲ叩クニヨリ其音海底ニ響キ
 又ウタセ網漁ハ海底ヲ濁シ共ニ魚類ヲ散逸セシメテ又
 海岸ニ来ラシメス地曳網漁業ノ害トナルト少ナカラズ
 然レ氏若シ沖合ニ里以上ノ所ニ於テセハ其害少ナシ蘆
 村調査ニヨル立網漁ハ海岸ニ近寄ル魚ヲ沖合ニ於テ横
 断シ地曳網ノ不幸トナル乍併遠海ニ於テセハ其害少ナ
 シ○坪網ハ常置漁具ニシテ魚ノ通過ヲ横断シ他ノ漁業
 ヲ妨害スルト甚シ深江村調○網漁ハ章魚壺漁ヲ妨ケル
 一最大ト何トナレハ章魚其壺ニ入ントスルモ網壺ノ邊
 ニ於テ動揺スル氏ハ章魚恐怖シテ去リ或ハ却テ其漁網
 ニ罹ル等ノ一アレハナリ御影村調○當村地先ニ赤貝ヲ
 生ス其稚小ナルヲサルボ貝ト云フ然ルニ此稚貝ヲモ濫

捕スルノ弊ヲ生シ蕃殖ヲ妨害ス宜シク採期ヲ定ムヘキ
 ナリヨル以下公シニ○鱸鰠等ノ當村漁場へ群来スルヤ兵
 庫青木西宮等ノ漁者竊ニ捕獲スルアリ若シ之ヲ追捕
 スレハ其收獲物ノ半ヲ没收スル慣例ナレ氏彼ノ漁者ハ
 頗ル老練ニシテ其逃走スル一最モ輕捷ナレハ追及スル
 一容易ナラス為メニ久シク其害ヲ受ク

第三章 蕃殖

第一款 生産期節

魚族ノ生産スル期節尤ノ如シ

蘆屋、青木、味泥、岩屋、葦合
 各村ノ調査ニヨル

品名	初メテ捕獲セシ月	卵ヲ孕ミタルモノヲ	最後ニ捕獲セシ月	卵ヲ孕ミタルモノヲ	卵ヲ捕獲セシ月
鰯	四月				九月
烏賊	四月				七月
沙魚	四月				七月
海鰈	五月				七月
鱸魚	九月				十一月
野	四月				六月
鰈	六月				八月
蟹	五月				七月
刀魚	六月				九月

鯖	鱈	鰺	鮠魚	ア コ	鱈	鮫 鱈	蝦 雜 喉	鮪	鰹	章 魚
四 月	五 月	五 月	四 月	四 月	六 月	六 月	十 二 月	五 月	六 月	六 月
									七 月	
七 月	六 月	七 月	七 月	七 月	八 月	八 月	一 月	七 月	八 月	八 月

兵庫縣

茅二款 生産場

コシナガ鰯及刀魚ハ當村地先ノ海底ノ藻乃陸ヲ距ルニ處
ニア又ハ泥ノ中ニ生産スト云フ蘆屋村調査ニ鳥貝及
赤貝ハ陸ヲ距ル九十町以外ノ海底ニ産ス○鰯ハ當村地
先ノ海底ニ生シ或ハ播磨紀伊海ヨリ來集ス青木村調○
ドロマン鰯ハ當村地先ノ海底ノ藻或ハ泥ノ中ニ産ス六
月中旬穏波ノ日孳化後凡三十日ヲ經タルモノ即チドロ
マンノ一層小ナルモノ海岸ニ來リ集リ為ニ潮水ノ變色
スルヲアリ住吉村調○章魚ハ其卵子蝦蟇ノ如ク白色半
透明ニシテ軟沙ノ海底ニアル藻或ハ沈没セル繩網等ニ
産附シ孳化ノ後漸ク淺處ニ移ル但本村漁場ニ産スルモノ
ノハ小ニシテ且其數僅少ナリ御影村調○海鼠ハ海岸ノ
淺處ニ産卵シ成長スルニ從ヒ深所ニ移ル但礫海岸ニ接

兵庫縣

ヲ云 以外ニ出ル一稀ナリ又其孚化ノ際冬季降雪多クシ
 テ其雪水海ニ注キ海水非常ニ冷エル氏ハ該子苗死スル
 モノ多シ又孚化後ハ凡一年ニシテ長凡四五寸トナル
 村調査ニヨ ○ウボゼ魚ハ六月頃海月ノ腹ノ内部ヨリ孚
 ル以下全シ ○ウボゼ魚ハ六月頃海月ノ腹ノ内部ヨリ孚
 化シ生長ニ三分ニ至ル迄ハ海月ニ抱カレ八月頃一寸五
 分位ニ長シ漸ク海月ヲ離ル然レ氏常ニ海月ノ近傍ヲ游
 泳ス故ニ當地ニ於テハ此魚ヲ海月魚トモ云フ斯ク海月
 ヲリ生スレ氏終ニハ海月ヲ以テ自己ノ餌食トナスト云
 フ

第三款 有害物

大龜ハ渙網ヲ害スル一太シ然レ氏鱒ヲ逐ヒ来ルノ恩ア
 リト云ヒ之ヲ捕獲スルモ酒ヲ吞マシメテ放流スルノ例
 ナリ 蘆屋村調 ○近來蒸氣船ノ通行ニヨリ諸魚速ク去ル
 ヲ以テ頗ル漁事ニ害アリ 青木村調 ○鱒ハ諸魚ヲ喰ヒ又
 漁網ヲ損傷スル一少カラス即チ建網ヲ海中ニ張レハ該
 魚ハ輒チ来リテ網中ノ魚ヲ奪ヒ去リ同時ニ其網ヲモ損
 ス之ヲ防クノ法未タ良案ヲ得ス槌ヲ打テ僅ニ之ヲ威ス
 ノミ 葦合村調 查ニ ○當郡東山官林山母砂子谷寺ヶ谷虹ヶ
 平山瀧谷山母キイキ谷山母葎川谷山母等ノ諸山ノ林樹ハ明治
 初年ノ頃ヨリ年々濫伐セシニヨリ近年鱒等ノ漁額ヲ減
 シ漁業ヲ害セシ一少カラス

第四款

蕃殖ヲ謀ル場所

當海岸ハ風潮及海底ノ模様等泉州界浦ニ類似ス故ニ各
 種貝類ヲ移シ而シテ貝漕網等ノ不良漁具ヲ停止セハ蓋
 シ蕃殖ノ益少ナカラサルヘシ住吉村調○當海沖合ニハ
 瀨アリ其底軟沙ニシテ恰モ肥前ノ佐賀筑前ノ三瀨ノ海
 底ニ類似ス依テ該地方ニ産スル鯉ヲ移殖セハ効空シカ
 ラサルベシ葺合村調査ニ○鮑魚ノ小ナルヲメントリト
 云フ該魚蕃殖保護ノ為メ二十年一月陰曆十二月二十三
 日ヲ以テ該漁子操網卸トナシ二月即正月三十日ヲ限り
 網揚ケトナセリ

第四章 漁民

第一款 營業ノ景況

打出村

本村ハ明治九年ニ海面ヲ借用シ創メテ漁業ヲ營メリ
 然レモ爾來不漁打續キシ為メ其業ヲ維持スル不能ハ
 ス遂ニ廢業シ現今ハ全ク漁業者ノ跡ヲ絶テ單ニ他方
 ノ漁者ニ入漁セシメテ其漁獲高ノ十分一ヲ徵スルノ

蘆屋村

本村ハ明治九年ニ海面ヲ借用シ創メテ漁業ヲ營メリ
 其業ハ鰯漁ナルモ爾來汽船ノ往復或ハウタセ網マカ
 セ網立網等不良ノ漁者行ハレ加フルニ漁者増加スル
 ニヨリ漸次不漁ニ傾キ衰頽甚シ

深江村

鰯漁ハ近年不漁ニシテ該漁業衰頽セシ一ハ蘆屋村ニ
 全シ又ウタセ網マカセ網立網手操網ノ漁業モ亦素ヨ
 リ不良ノ漁具ニシテ近來不漁ヲ訴フルモ雇漁夫ノ給
 金安直ナルト捕獲ノ魚價ハ幾分騰貴セルトニヨリ其
 得失稍々相償フト云フ此ヲ以テ尚之ヲ營ムモノアリ
 青木村 魚崎村
 鰯魚ハ維新後漸々不漁ノ景況ナルモ漁者ニ於テハ別
 ニ増減ナシ

西青木村 横屋村

本村漁業ハ明治九年ヨリ創始セシカ其營ム所ノ鰯漁
 業ノ景況ハ青木村ニ全シ
 住吉村

本村ハ明治九年海面ヲ借用シ創メテ漁業ヲ營ノリ甬
 來一般漁者増加セシカ立網貝漕漁等不良ノ漁具行ハ
 ル、ニヨリ漁業ハ衰微セシモ近年漁夫ノ雇賃安價ナ
 ルヲ以テ僅カニ之ヲ營メリ

御影村

本村ハ章魚漁業者ノミナリシカ他方ニ行フ網魚ノ為
 ノ障害セラレ自然漁業ハ衰頽シ明治十二年頃ハ二三
 ノ漁者アリシモ甬來減シテ方今ハ僅カニ一戸ヲ存セ
 リ

石屋村

本村ハ明治九年ヨリ海面ヲ借用シ創メテ漁業ヲ營メ
 リ當時漁者一二戸アリシモ甬來不漁ニヨリ現今ハ漁
 者ノ跡ヲ絶テリ

東明村

鰯漁ハ不漁ナルヲ以テ明治元年ノ頃ハ三四戸ノ漁者
アレバ漸次減少シ現今僅カニ一戸ヲ存セリ

八幡村

本村ハ明治九年ヨリ海面ヲ借用シ創メテ漁業ヲ營メ
リ當時漁者一戸アリ爾來別ニ増減ナク之ヲ營メリ

新在家村 大石村

天保以來維新前迄ハ相當ノ漁獲アリテ漁船漁具等モ
自カラ完成シテ營業ヲナセシカ爾來不漁打續キ遂ニ
皆廢業シ現今ハ僅カニ一人ノ兼業者ヲ置キ而シテ他
縣ノ漁者ニ入漁セシメ其捕獲高十分一ヲ徵收スルノ
景況ナリ

味泥村

本村ハ明治九年ヨリ海面ヲ借用シ創メテ漁業ヲ營
リ當時漁者一戸アリシカ其後廢業シ方今ハ澳期中他
方ノ澳者ニ入漁セシムルノミナリ

岩屋村

一時中止セシカ明治九年ニ至リ海面ヲ借用シ再
其業ヲ始メリ然ルニ爾來不漁ニヨリ衰微セシト蘆屋村
ニ全シ

葦合村

弘化ノ頃ハ本村漁者九十七八名アリテ傍ラ農業ヲナ
シ其生計ヲナセリ或ハ又親方ノ如キ資本主モアリテ
諸魚ノ收獲ハ頗ル多ク平均一ヶ年一人ニ付凡金四十
圓程アリ降テ嘉永ノ頃ヨリウタセ網漁者來侵ノ為ノ
漸次魚類ニ減耗ヲ致スニヨリ數回保護ヲ需ムルモ舊

地頭ハ別ニ何等ノ取締ヲナサス爾來本村漁民ハ追々増加シ現今ハ既ニ三十三名ノ多キニ及ベリ然ルニ漁價漸ク騰貴セシニヨリ漁獲ハ斯ノ如ク減スト雖氏相應ノ收入アリ即今去ル明治十八年ノ如キハ總收穫金千九百八十圓アリ平均一人六十圓ニシテ前記收入ニ比スレハ九四割半ノ増額ヲ見ハセリ然レ氏從前ノ如ク物價廉ナラサルヲ以テ單ニ漁業ノミヲ以テハ一家ノ生計ヲ營ムニ足ラサルニヨリ漁者ハ總ヘテ勞役或ハ他ノ小商業ヲナシテ之ヲ補ヘリ以上各地ノ概況ヲ記述セリ尚尤表ヲ掲ケテ郡内一般ノ状ヲ示スベシ

漁業概表

種別	蘆屋村	深江村	青木村	西青木村	横屋村	魚崎村	住吉村	御影村	東明村	八幡村	新世家村	大石村	岩屋村	葦合村	合計
曳網類 數疊	一	四													一六
建網類 數全															六〇
綠網類 數全															八〇
旋網類 數全															六〇
敷網類 數全															六
手釣類 數本															二八〇
繩釣類 數桶															三五
窩籠類 數個															一三
漁船 數艘	四	六六													一七〇
漁民 數人	一	九三	五〇	九	二	二	一	一	一	一	一	一	二	三三	一七七

漁業者、種別尤、如シ

芽二款 營業種別

種別	海鼠網漁者	刀魚釣漁者	鰈拵網漁者	鰈建網漁者	海鰈釣漁者	鳥貝拵網漁者	ベラ釣漁者	沙魚建網漁者	鰻王筋魚網漁者	鰻地曳網漁者
村 芦屋										一
村 深江						九二		三		六
村 青木										
村 西青										
村 横屋										二
村 魚崎										二
村 住吉										一
村 御影										
村 東明										一
村 八幡										一
村 新世										一
村 岩屋										二
村 算合	一〇	三三		七	三	一〇	三		八	
合計	一〇	三三	九	七	三	一〇	三	三	八	七

系

又

資本主	種別	鱸釣漁者	鰻鱺 <small>鰻鱺與鰻鱺 沖取網漁者</small>	繪残魚釣漁者	雜魚名網漁者	雜魚綠網漁者	鯛釣漁者	鰲建網漁者	鰲坪網漁者	真章魚 <small>真章魚</small>	雜魚 <small>雜魚</small>
	村 芦屋										
四	村 深江				二	四		一三	六		
	村 青木				五						
	木村										
	村 横屋										九
	村 魚崎										
	村 住吉										
	村 御影										
	村 東明										一
	村 八幡										
	家 新世					一					
	村 大石										
	村 岩屋					二					
	村 草合	二〇	三三	三〇			三〇	一五		五	八
四	合計	二〇	三三	三〇	七四	三	三〇	二八	六	六	一七

漁業ニ関スル營業者ノ種別ヲ擧クレハ左ノ如シ

手間取	雇夫		普通漁者
	他村	自村	

備考

資本主 網親ト稱シ自ラ漁業ヲナサス他ヲ漁者ノ
 自ラ仕込ヲナス一能ハサル者ニ漁具船具一切ヲ
 貸附シ且ツ日用需品ヲモ給セリ而シテ其器具ノ
 損料トシテ該捕獲金ノ四分ヲ取り又給與セシ需
 用品ノ代金トシテ残り六分内ヨリ引去リ其餘金
 ヲ漁者ノ所得トナスアリ或ハ仕込親ト稱シ需用
 品ノミヲ貸與シ捕獲物ヲ悉皆引取り之ヲ賣却シ
 テ其半ヲ漁者ニ與フルモノナリ

兵 庫 縣

雇夫 専ラ地曳網漁ニ雇ヒ入ルモノナリ

岩屋村ハ手網漁ニ而シテ自村内漁夫ノ外尚他國

ノ漁夫ヲモ雇ヒ入ル其地方ハ習慣ニヨリ各村同

一ナラサルモ多クハ備前備中備後ノ各地ニ係レ

リ其他漁夫雇期モ亦種々アルモ多クハ四月ヨリ

十月迄ヲ一期トス然レ氏盆休ミト稱シ八月中旬

ハ漁夫一統歸郷シ更ニ九月上旬陰曆ハ再來ス或

ハ九月ヨリ始メテ雇フモノモアリ他漁夫雇入ノ

手續ハ漁期ニ先テ雇主自ラ其地方へ出張シ漁夫

頭人頭トニ就キ雇入ノ員數ニ應シ給金ヲ前貸シ

該證書ヲ取り以テ雇入ノ約ヲ結フ然ル時ハ給額

頗ル廉ニシテ又漁夫妄リニ雇主ヲ變スルノ虞ナ

キノ便アリ而シテ解雇ノ片其殘給ヲ交付スルア

リ或ハ其殘給ハ捕獲物ヲ賣却シテ其半ヲ與ヘテ

之ニ充ツルモアリ否ラサルモノハ漁者本郡地方

ニ來リシテ雇入ルモノナリ給料ハ職ニヨリ或ハ

村ニヨリ一定ナラサルモ頭領ハ一ヶ月二圓乃至

二圓三十錢ヲヤジハ一圓八十錢乃至二圓二番ヲ

ヤジ平働ハ一圓五十錢乃至一圓八十錢ナリ食料

ハ多ク雇主之ヲ給ス用ニ云フ網ヲ曳キ上クル片

ハ多ク雇主之ヲ給ス用ニ云フ網ヲ曳キ上クル片

ハ多ク雇主之ヲ給ス用ニ云フ網ヲ曳キ上クル片

頭領 網ノ構造ヲ掌ル

六 長 系

ヲヤジ 漁夫ヲ指揮シ漁業ヲ擔當ス

ニ番ヲヤジ 事業ヲ補助ス

平働 頭領ヲヤジ 指揮ヲ受ケ漁業一切ノ雜事

ニ使役セラル

手間取 雇夫欠クルカ又ハ大漁ノ日當日限りニ雇

ヒ入ルモノナリ日給六錢乃至十錢ニシテ食料ハ

雇主之ヲ給ス或ハ別ニ賃金ヲ給セスヲカズ又ハ

サイノモノト云ヒ該捕魚ノ内幾分ヲ與フルモア

リ

兵庫縣漁業慣行録卷之四終